

第1回しまね産業活性化戦略会議 会議後記者レクチャ

(山根泉商工労働部長) 今日、第1回目の産業活性化戦略会議を行いまして、その概略をブリーフィングさせていただきます。

本日の会議の内容ですが、第1回目ですので、最初に、配布した資料を中心に、これまで島根県が、どういうことを、どういう目的でやってきたのか、という概略を説明しました。説明は、全体的な島根県の産業の構造から始まりまして、平成16年度から行っております産業振興のためのプロジェクトを中心に話をしました。

そのあと、フリートーキング的に各委員さんからお話をさせていただきました。

特に体系だった議論というところまではしていませんけれども、出てきた内容を項目的に整理すると、全体的な産業振興の戦略、考え方に関する問題、あるいはそれに絡む組織のあり方、それとマーケティング、市場をどういうふうにみるのかという観点からの御議論があったと思っております。

また、プロジェクトでいうと、特に観光について皆さんの意見が集中したということでございます。

基本的な考え方、あるいは組織に関しては、一元的な情報の収集、司令塔的なものが必要で、先を見た展開をしていく必要がある、というご指摘がございました。

それから、マーケットをどうつかんでいくかということですが、情報の提供面での口コミといったPRが重要になってきている、という御指摘がございましたし、あるいは、マーケットエリアは場所がいろいろございますけれども、一つは、特に自動車産業の立地の観点から九州をねらうべき、あるいは、もう少しグローバルに、中国韓国をはじめとするアジア地域を主要なターゲットマーケットとして展開すべき、というご議論もありましたし、それから、地理的に近接性をいかした広島をにらんだ展開をしていくことが必要じゃないか、というお話もございました。

それから、これまでやってきたことについての評価について、マーケットをどうみるかというのも一つの評価かもしれませんが、技術面での評価では、現在の新技術の評価については、基礎的な段階を終わり、これからはその技術を応用した商品化が課題だと、いうご指摘があり、今日おでかけの委員さん方は、各地域で会社の経営などをしていらっしゃる方ですから、ぜひ、そういうコネクションを使った商品化にもぜひご協力をいただきたいという話もありました。

また、観光では、個別の県側への要望も含めて、さまざま、インフラの整備とか、観光のマーケット動向調査をしてみても、という話もございました。

今、ことがら的にお話をしましたけれども、さまざまな論点、視角からの御議論があったわけです。

今回は、8月23日に開催するということで、御了承をいただきました。次回については本日出てきたことを、委員の皆さんが議論しやすい形で、事務局のほうで整理をした上で、2回目に臨みたいと思っています。会議の内容については、以上です。

(溝口善兵衛知事) 若干私のほうから感想をいいますと、この会議は、「戦略会議」という銘を打っているわけですが、実際にこれまでも、産業振興については、いろんなことをやってきているわけでありまして、今日は、まずはこれまでやっている施策、あるいはその進展度、成果等、問題点等ご説明をして、それぞれの委員の方々がそういう話をお聞きになって、ご自分の感想を述べるということが主体でございました。

わたくしどもとしては、やはり、実践的にどう進めたらいいか、そういうヒントをいただくということが、この会議の大きな目的でございますから、商工労働部長がただいま申し上げましたような、いろんな関心事項が、いろいろな角度から出てきたということでもあります。

ある委員からは、新規の企業を誘致する前に、たとえば、既に県外から来て長くこの地で操業している企業などが、拡大投資をして、雇用が増える、といったことが最も手っ取り早いわけで、そういうことについて、どういう問題があるのか、あるいは県としてどういうことが考えられるのか、もう少し具体的に教えてほしいとか、あるいは、たとえば情報産業、IT産業も多く立地して操業していますが、事業全体からみて工場の拡張計画があるのか、県のほうもどういう把握をしているのかといったといった質問もありました。

あるいは周辺の地域ですね。たとえば、広島とか、山陽との関係、そういった所と具体的にどうなっているのか、もう少し具体的な話を聞かせてもらって、その上で議論をしたい、という注文もありました。

やはり実践的な意見をいただいたり、アドバイスをいただいたりするということでもありますから、そういうことも、さらに、我々の方も、情報を集めたり、企業の話をお聞きに行ったりして、次回以降対応しようということがありました。

商工労働部長がいましたように、観光についても、外国人、あるいは韓国の方をこちらに呼ぶときに、玉造なんかの体勢が十分なのかとか、情報産業をこの地に連れてくる、あるいは全国に展開するといったときに、情報網の整備はどうなっているのか、というようなかなり実際的なやりとりがありました。これはわたくしどもが望むところで、そういう方向で議論がなされたということでもあります。

今回は今回若干調べてほしいといったところを整理しながら、説明していき

ます。今回を含めまして三回くらい会合を開きまして、そういう中で、具体的にどういうふうにしていけばいいのか、というようなことをとりまとめて公表するようにしたい、というのが当面の予定であります。

説明は以上でありまして、皆さんからの質問があればお受けいたしたいと思っております。

(質問) 委員任期2年ということですが、会議は毎年やるということなんでしょうか？

(知事) そうです。この産業振興っていうのは、粘り強く腰を据えてやらなきゃいかん問題であります。一般論として長く続けるということはないと思うんですね。具体的な問題などを含めながら、ご意見をお伺いするというものでありまして、しばらくは続けたいと思っております。

(質問) 毎年毎年、次年度、あるいは補正で対応するというところかもしれませんが、そういうふうなものの行動計画みたいなものは？

(知事) 行動計画、というよりも、もう少し実践的に、こういうような所に当たったらどうかとか、観光でいえばPRの体制はこういうふうにしたらどうかとか、あるいは企業の雇用を増やすためには、たとえば既存の進出企業がどういふ問題を抱えているのか、そういう問題に対してどう対応したらいいか、とか、私は、そういう実践的な問題を取り扱っていきたいと思っております。

(質問) 知事に伺います。初めての公約の実現で、こういう肝いりの会議が開かれて、こういう会議ならではの成果とか、民間人ならではの、これまでの会議とは違ったこういう成果があった、というような感想を伺います。

(知事) それはさっき申し上げましたように、かなり実践的に、ビジネスをやっている方から、こういうことを調べてみたらどうかとか、ある委員は、事実関係を押さえて進むということが大事なので、既存企業の投資の拡大がどういふふうな所にネックがあるとか、あるいは、今県に進出している企業はどいう戦略で臨もうとしているのか、そういう実践的なところをもう少し押さえて、その上で県がどうするかとか、あるいは観光などについても同じでしたね。そういう意味で私自身がお聞きしたいような視点からの関心を示されて、たいへんよかったと思っております。

(質問) これは部長に伺わないといけないかと思いますが、今説明を伺っていても、具体的なイメージがもう一つ湧かないんですが、委員が今の島根県の産業構造をこうとらえて、たとえば、プラズマの技術だったら、自動車の足の部品だけでなく別の部分にも使えるとか、広島を根拠にしているなんとかという企業に売り込めば販路が開けて中国韓国にこうやって売れるんだとか、そういうちょっと具体的な例を挙げてください。

(部長) 今おっしゃったような具体的なビジネスとしての御提言とかアイデア

とかはまだ出てきておりません。まだその前の段階だろうと思っております、まずは、島根は今何をやっているか、島根の現状はどうかっていうところのまだ整理の段階かな、という気がしました。

(質問)現状の中でなにかこうありました？この分野は全国に通用するとかです。

(部長)そういった例で、ここはいいよね、ここは他の所より勝てるね、というような具体的なご指摘はなかったですね。

(知事)たとえば、今、産業技術センターで5つの新技術を開発していますね、そういうものを、たとえば、プラズマの表面加工については、自動車産業とか、そういった所にどうやって売っていくのか、というような質問はあって、こちらの方からこういう状況です、というお話はいたしました。

(質問)1回目のとりまとめまでに、あと2回やるんですね。次も質問に対して説明をするんですか？

(知事)そのとおりです。それぞれの、今日いただいた質問だとか、チェックしなきゃいけないことについて説明した上で、それぞれの委員から具体的な意見をお伺いしたいということになります。

(質問)1回目のとりまとめの段階で、どの辺りのところまでの、委員としての具体的なアドバイスを想定されているのかなということが判断つかなくて。

というのが、さっきあったように、具体的にこれをここに売り込めばいい、ということをお求めているのか、それとも1回目のとりまとめは、ある程度、具体的なアドバイスのものを集めて、こんな意見が出ましたよっていう話になるのか、1回目はどこまで目指してらっしゃるんでしょうか。

(知事)まあ、具体的にここに売り込めばということまでいければ一番いいですけども、それは実際のビジネス、実際の仕事をやりながらやることですからね。

こういう方向で進んでいく、あるいは、こういう方向に重点を置いていくとか、について議論のとりまとめをして、それをわれわれが、たとえば来年度以降の産業振興のしかた、あるいは予算措置をつける過程なんかに、参考にしていく、ということです。

(質問)じゃあ、方向付けというレベルですか？

(知事)それが方向付けですよ。やっぱり具体的にわれわれがやっている活動の動きを、一方面で重点にするとか、こちらのほうで活動するとか、あるいは個別の企業に対する働きかけなどについても、これは予算とは直接に関係しませんけれども、そういう問題についてもさらにそちらの方面で努力をするとかです。そういう実際的な方向性を出していただいて、参考にしていく、ということです。

(質問) 来年度方針のことです。澄田前知事が新産業創出や観光トップブランドなどの重点化枠を設けて産業振興に取り組まれてきたわけですが、知事自身この会議の提言、意見を踏まえて、そういうふうな重点化枠を設けていきたいということがおありですか？

(知事) それは、これまでかなりなことをおやりになってきているわけですし、量的にその部分を急拡大するというよりも、やはり重点の置き方なんかをよく検討していく、と。御意見いただいて、その上で調整を加えていく、変更を加えていくということでしょうね。今、大きなプロジェクトをやるといった状況にはまだないと思いますね。

(質問) ということは、商工労働部全体の予算は基本的にそのままにして、その中で重点を割り振っていくというふうに、基本的は知事にお考えですか。

(知事) いや、そこは、まだそういうところまで具体的には考えていません。それは、この会議での議論、財政全般の問題などを総合的に考えた上で、まだ、そういうプロセスの途中です。

(質問) ちょっと細かいことなんですが、ソフトバンク B B 常務の阿多さんという方は、最初から委員に入ってもらいましたか？

(部長) ご本人と話はしておりましたけれども、委員になることが決まらなかったのが発表できなかったということです。

(質問) 追加ということですか。

(部長) そうです。

(知事) 情報産業というのは、日本全体としても拡大をし、島根県なども拡大が図りたい分野でありますから、そういう方面の人になるべく入ってもらってご意見ちょうだいしたいということです。

(質問) 今日 1 回目なんですけれども、ほぼ 3 分の 1 の委員が欠席している状況で、十分な意見が聞けるのでしょうか？

(知事) 会議は、本当はやりとりするには 10 人未満くらいが実際には、適正な規模ですが、ある程度忙しい方ばかりですので、全員が参加できないのは前提にして 10 人を超える人数にして、お願いしています。

今日もやりとりは 1 時間弱でしたけれども、それでもまあ 1 人の人が 2 ~ 3 回までしゃべるのは難しいですね。そこは現実的に考えていけばいいですし。

それから委員の方にも申し上げたんですけれども、この会議だけじゃなくてね、いろいろわれわれの方に注文ですとか、調べてほしいということがありましたら、どうぞ別の機会でもお願いしますと言ってきました。

この場はまあ、大きなわれわれが検討する場の一つだとふうにお考えいただきたいと思います。

ここでなにか壮大な計画つくって、それでこうやるということではないです

ね。特に産業というのは、そういう計画的なものよりも、実践的にどうやるかが、私は、今島根にとって重要な時期になっているという認識ですね。

(質問) スケジュールで、3回目の会議が10月に終わってとりまとめられるということですが、今年中にとりまとめるということですか。

(知事) ええ、とりまとめは10月末をめどにしています。若干前後があるかもしれませんが、めどとしてはそういうことです。

(質問) 今回メンバーをみると比較的製造業の関係者が多いというふうにお見受けしましたが、その中で観光に意見が集中したというのはどう考えてらっしゃるかということと、観光についての問題は非常に重要なんです、今後このビジョンの中であくまでやっていくのか、あるいはそういうことであれば、知事は他の場で検討してやっていくのか、どうお考えでしょうか。

(知事) 観光は比較的わかりやすいということがあるでしょうね。ご自分の体験からして。

これも個別の企業ではないのでいいますけれども、たとえば玉造でJRの新幹線の切符がとれないようになっている、端末がないという状況になっている、といったような具体的な話だとか、

九州の別府辺りは韓国の人が多く来ているのでそういうことを島根でやってみてはどうかという意見がある一方、他方で、外国のお客さんの単価、そういうものとの関係はどうかとか。

あるいは、今はインターネットの時代にあるけれど、一部の大きなホテルでもインターネットが部屋の中でまだ使える状況になっていない、そういうことはどうかとか、

あるいは、島根は非常にいい場所である、いろんな各種の資源があるんだけど、そういうPRに県外に出ている島根の人たちを活用すればということ、そういうことは県人会を通じてやっておりますけれども、さらにどういう工夫ができるかということについても、われわれが参考にすべき意見だったなあと考えていますけども。

そういう意味で、観光のところは身近で、皆さんがご自分の経験などから意見をいいやすい分野であったことも今日の議論の一つの背景にあるでしょうし、

わたくしはこの会議はなるべく実践的にやっていきたいんで、たとえば、今決めてるわけじゃありませんけれど、観光というのは、ややまとまった領域ですからね、必要があれば部会のようなものを設けて、観光に関心のある方々を集めて、これは私が出るというよりも事務局のほうでやらせてもらっても、部会でなくてもいいんですけども、やるというようなこと、

あるいは観光については、いろんな人が関与しているわけですね、旅館業やホテル業といった人、それから観光資源を持っている場所の人、それからその

町の人、それから市町村、それから県があるので、そういうものの役割をどう考えていけばいいのか、協力関係をどう形成いけばいいのか、それらについてもいろいろ努力なさっていますけれども、また新しい目でまた見直していく、

それはこの部会ということもあるでしょうし、それよりももうちょっと実践的に商工労働部の中で、担当者と関係者が集まって会合を開いていく、まあいろんなやり方があります。そこら辺はやりながら決めていこうという、そういう柔軟な考えでいます。

(質問) 今のお話をお伺いしていると、個別テーマごとに、商工労働部と委員さんメンバーで細かい意見交換をしながら、最終的に、第2回会議なり、第3回会議なりで、まとめをするというようなイメージですか。

(知事) いや、さっき申し上げたような観光のような問題については、観光の人と話をしなきゃいけないし、あるいは市の人とか、観光の資源を持っている神社であるとか、県の博物館であるとか、そういう人が集まった会議で、どうしたらいいか、そういった相談をもう少し、これまでもやっていることですけどね、そういうところで相談して、それはそれでまとまったらやればいいじゃないですか、この会議では刺激を受けてそういうものがね、始まったというふうに考えて、

すべてこの会議の中で調節をして会議で決めることではないです。むしろ、いろんな意見をもらって、われわれは刺激を応じて受けていけばいい、と。

(質問) 会合の中身は非公開にすべき内容はありましたか。

(知事) ありましたね。聴いてて個別の企業の関係とか、特別の企業で、あそこはどうだとか、あそこあそこはどうだとか、そういったことがでますから。やや実践的に話をさせていただくように考えていますから。会が終わった後に質問に対応するようにしたいということです。

(部長) それでは、これでブリーフィングを終わります。